

フォーラム「フランスから考える民俗資料の収集保存と活用方法」配付資料

問題提起「あふれかえる民俗資料の未来」 宇仁義和（東京農業大学） unisan@m5.dion.ne.jp

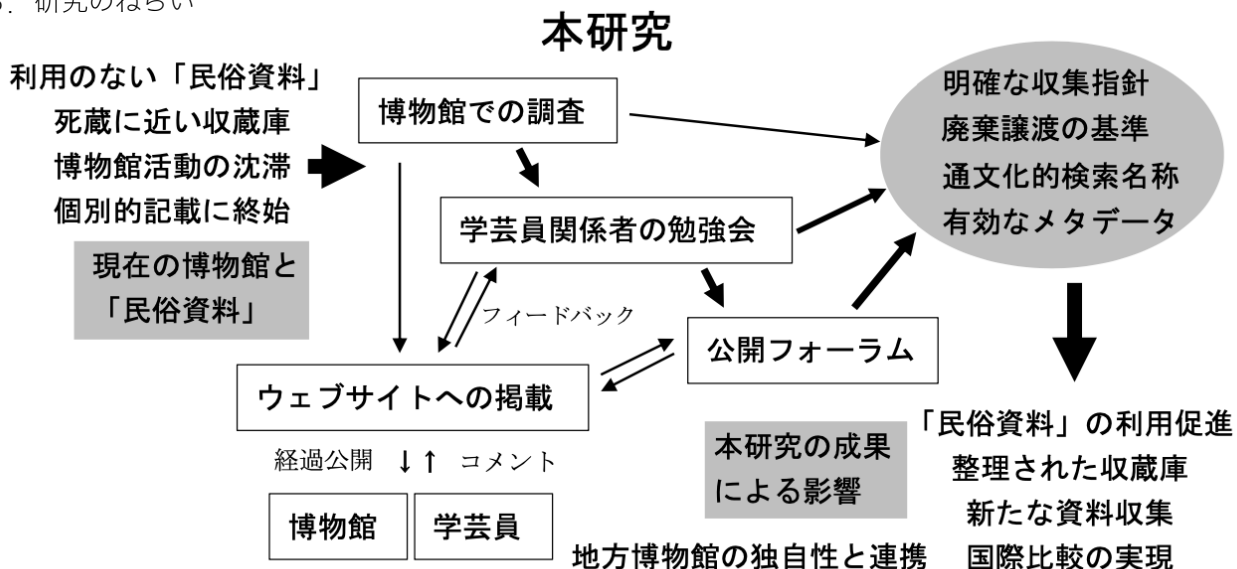
1. 科研費基盤研究C

(課題番号：23K00959) 「民俗資料」の収集保存基準と検索名称の開発:工場部品から日記まで

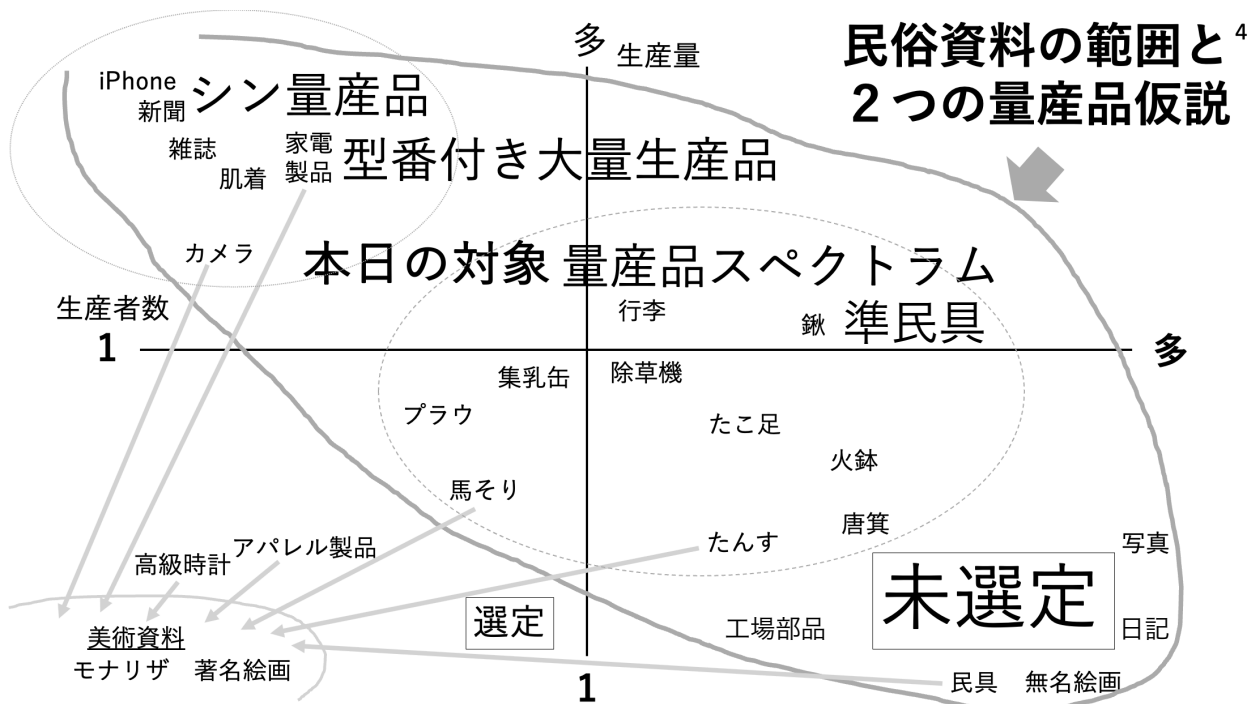
2. 3年間の研究内容

- 1) 収集指針の提案
- 2) 廃棄と譲渡に関する基準の提示
- 3) 検索用メタデータの追求
- 4) 通文化的検索名称の考案
- 5) 海外博物館での扱いの共有

3. 研究のねらい



4. 民俗資料の範囲



5. 民俗資料の特徴

- 1) 立体大型、不定形
- 2) 量産品と価値不明
- 3) 来歴や経験からの資料価値
- 4) 名称の揺らぎ
- 5) 未審査未選定
- 6) 連携と分担の不足
- 7) 活用の議論不足
- 8) 未検討の廃棄や処分

6. 同一資料や類似資料の複数保存の意味

7. 名称の揺らぎ、必要な検索名称

水稻直播機（湛水式タコ足式）、水田直播機、昭和式種蒔器、多足式直播機、たこ足直播器、黒田式直播機（タコ足）、たこ足直播機

8-9. 量産品は対象外の民俗系博物館も存在

10. 民俗資料の活用＝動態保存？

11. イコム職業倫理規定（2004）は処分を条件付で記載

収蔵品の除去

2.13 博物館の収蔵品からの除去博物館の収蔵品から資料もしくは標本を除去することは、その資料の意義、性格（更新できる場合もできない場合も）、法的な位置、およびそのような行為から生じ得る公衆の信頼の損失を十分理解した上でのみ行われるべきである。

12. すでに始まっている民俗資料の無秩序な廃棄

市民寄贈の民具600点処分 江別市教委、旧文化財整理室解体時に 建材に石綿、飛散防止で

会員限定記事

2023年10月13日 23:04(10月16日 10:18更新)

あとで読む



市民から寄贈された民具が収められた収蔵庫の内部（市教委提供）



【江別】市教委が今夏、旧文化財整理室（大麻北町）の解体工事を行った際、敷地内の収蔵庫を内部の資料ごと処分していたことが13日分かった。資料は市民から寄贈された民具約600点。市教委は、建材にアスベスト（石綿）が使われ、アスベストの粉じんが屋内で検出されたことから「資料と建物を同時に処分せざるを得なかった」とするが、寄贈者には事前に伝えていなかった。

市教委によると、収蔵庫は鉄筋コンクリート造平屋で延べ床面積120平方メートル。旧NHK野幌ラジオ送信所の敷地に1957年、発電機庫として建てられた。80年に市が土地と建物を購入し、送信所は文化財整理室、発電機庫は収蔵庫として使った。

アスベストによる健康被害が問題化したのを受け、市は2005年に各施設を調査した結果、収蔵庫の天井にアスベストが吹き付けられていることを確認し、立ち入り禁止にした。その後、敷地の売却を決め、20年に再調査すると、屋内の粉じんなどからもアスベストを検出した。飛散を防ぐため、資料を取り出さずに取り壊すことにした。

収蔵庫に収められていたのは1960～70年代に市民から寄せられた民具などのうち、91年開館の市郷土資料館に収蔵されなかったもの。木製農具や戦前の食器や棚などがあつたとするが、リストも見つかっておらず、正確には分からないという。収蔵庫とは別に、整理室に保管されていた約2万点の資料は、新たな文化財整理室となった旧角山小に2021年度中に移された。

収蔵庫内の資料の処分について市教委は、手続的に瑕疵（かし）はなかったとする。ただ、寄贈した市民らに事前に伝えていなかった。市文化財保護委員会的小林孝二委員長は「市民の共有財産が無断で処分されたことは重大な問題。市教委には今回の経緯をしっかりと検証してもらいたい」と話した。

市教委の伊藤忠信教育部長は取材に「関係者への配慮が足りなかった。再発防止に向け、現存する資料の管理などを徹底したい」と述べた。（土門寛治）